

- 1、科目区分 教職科目 B
授業科目名 音楽科教育法 II

教材研究と授業づくり

音楽教育講座 石塚真子

I、音楽科教育法 II

1、授業の概要

「音楽科教育法 II」は、2年生を対象に後学期に開講。受講者は、12名である。

この授業の目的は、「音楽教育の歩み、目的、内容、学習材、学びのあり方等についての基礎的な知識を得ることによって学校教育における音楽科教育の位置づけや意義について理解する。さらに、音楽の授業を展開するための基礎的な能力を身につける」である。

到達目標は、「(1)音楽教育の歩み、目的、学習材、学びのあり方等についての基礎的な知識について説明できる。(2)音楽科の授業づくりにおける学習材研究を行うことができる。(3)音楽の授業づくりを行うことができる。」であり、関連する DP は、「教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を習得している。」および「自己の学習過程を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。」である。

授業内容は、前半に音楽教育の基礎的な知識や音楽の授業づくりに関する講義、後半は、全体を2名の1グループで、それぞれのテーマに基づいて授業づくり（模擬授業）を行った。

今年度は、教材研究を深めることと、そこで得た知識を模擬授業のなかで、簡潔かつ適切に他者に伝える方法について考えること、この2点について特に意識して取り組んだ。

2、授業内容について

1回～4回までは、授業づくりにおける基本的な考え方について講義を行った。さらに、今年度は、限られた授業時間のなかで、伝達すべきことを簡潔かつ適切に説明できる力を身につけるために、15秒、30秒、45秒、60秒 presentation を行った。毎回、与えられたテーマに基づき、その場で提示された時間の中で、自分の考えを述べるという活動を行った。

5回～7回は、こちらで指定した6つのテーマ

（事例）に関する研究を行った。例えば、「アルトリコーダーの運指について」では、アルトリコーダーに関する教材研究の発表と、運指を学ぶための学習活動について検討した。ここで取り組んだテーマは、「発声について」、「ハーモニーについて」、「音楽のきまり・しくみについて」、「音楽史について」、「ソプラノリコーダーの運指について」、「アルトリコーダーの運指について」である。

8回から14回は、授業づくり（模擬授業）を行った。授業づくりのプロセスで得た知識や方法が実践で生かされるように、教材研究についても資料を作成し、発表の時間をとった。

さらに、授業づくりについては、全員でその授業テーマについて考えることができるように、授業づくりの後に、研究討議を行った。そこで学んだことを、フィードバック資料に記入し、各自で確認するようにした。また、必要に応じて、個人の課題を全体の課題として共有できるようにした。15回目は、研究討議の内容、学生のフィードバック資料に基づいた授業のまとめを行った。

様々な領域の授業づくりを体験できるようにするために、あらかじめこの授業で取り組みたい内容等から授業づくりのテーマを決めた。テーマは、「歌唱」、「鑑賞」、「創作」、「器楽」、「日本伝統音楽」、「諸民族の音楽」である。自分の興味あるテーマにとり組むのも一方法であると考えられるが、「日本伝統音楽」、「諸民族の音楽」のように、これまでに実際に授業を受けた経験の少ない領域の授業づくりにも取り組めるようにした。

また、授業づくりについては、授業外の時間に個別指導を行い、主に教材研究の指導に力を入れた。

3、学生の授業評価

学生自身が、この授業にどのように取り組んだのか、授業の最終回に質問紙調査を行った。

（回答者数 12名）

(1)「授業づくり」の事前準備のとり組みについて

A：授業づくりの事前学習時間

時間	人数
5～10時間	1名
10～15時間	3名
15～20時間	2名
20～25時間	1名
25～30時間	3名
30～35時間	0名
35時間以上	1名
その他(80時間)	1名

全体として、授業づくりについて非常に熱心にとり組んでくれた。初回の授業づくりの学生が、しっかり研究をして発表をしてくれたことが、つぎのグループへ継承されたといえる。また、全員に個別指導を行い、課題を確認したことで、学習材や学習方法の研究が深められたのではないかと考えられる。

昨年度の課題に、授業づくりの事前学習は熱心であったが、事後学習、他者の授業に関する学習が不足していたということがあったので、今年度は、授業の記録を授業時間外の指定された日時に提出することにした。その結果、下記のように、事後学習の時間も持てるようになった。

B：授業における事後学習時間

時間	授業づくりの後(人数)	他者の授業づくり後(人数)
0.5時間未満	0名	1名
0.5時間	4名	6名
1時間	6名	4名
1.5時間	1名	0名
2時間	1名	1名

さらに、授業を通して、「確かに準備などは大変で、パソコンも苦手なので嫌だったけど、教材研究は本当に楽しかった。(中略)私は、まだまだ知らないことが多すぎると思った。だから、この授業のおかげで、気になる本はすぐに買い、読むのも苦痛ではなくなりました。」という感想も得られた。教材研究の1つの方法について理解できたのではないかと考える。

(2)教材研究資料について

昨年度から、指導案に加えて、その授業づくりのために、どのような教材研究を行ったのか資料作成と発表を行うようにした。

学生のアンケートからは、5段階評価で、5評価が11名、4評価が1名と、この資料に関する評価は良好であった。授業をつくるために、どのような研究が必要で、授業のなかで、それをどのように選択し活用するのか、自分たちなりに考えられたようである。また、「教材研究」を「授業づくり」に活かすことができたか、という質問には、5段階評価で、5評価が2名、4評価が7名、3評価が3名であった。学生自身は、教材研究、授業づくりに精一杯取り組んでくれたため、充実感があつての評価と考えられるが、やはり、3と評価した学生の感想にあるように「分かっていることと、伝えられることは違ってしまう」や「教材研究と授業づくりをうまく結びつけることが想像以上に困難でした。頭の中で組み立てていくときに、もっとスムーズにできるように訓練が必要だと思いました」が、授業づくりの現実だったといえる。

次年度は、指導案の提出期限を早めに設定し、教材研究が授業づくりに生かせるようにしたいと考える。

4、今後の課題

この授業では、自分の担当したテーマだけでなく、他のテーマについても共に学習してほしいと考え、教材研究の発表の時間を設定した。そのことにより、教材に対する興味関心が生まれ、それがつぎへの原動力となり、最終的に全員で積み上げた「授業づくり」であったといえる。学生からも「一人であれだけの教材研究をするのは本当に大変だと思いますが、授業において、皆で一つ一つ丁寧に研究し、共有することで、知識や情報が増え、最終的に全ての領域について学ぶことができ、非常に意義のあるものでした。」との感想を得ることができた。

しかし、教材研究にはよくとり組んでいたが、それを授業づくりに生かすできていないグループが多かった。また、前半の presentation も活用できていなかったため、次年度は、指導案作成についても時間をかけて指導したいと考える。